

てんで話にならない。まるで判らない。

よく授業で私は『てんで話にならない。』『まるで判らない。』と言います。それは『全然話にならない』とか、『全く判らない』と言って叱っているのではなく、『（、）で話にならない。』『（。）で判らない。』と言っているのです。

日本人はつい日本語式に（、）を使いますが、実は中国語では（、）と（。）を厳密に区別しています。しかし、小学校から数えて12年間習慣付いている記号の使い方を、中国語を書く場合には改めること、そしてこれを習慣付けさせるのは大変な苦勞を要します。多分英語等であれば、書く文字が異なるので自然と頭が切り替わるのですが、中国語は書く文字が漢字のため、つい日本語式に（、）をやたらに付けてしまいます。中国語では並列の名詞、名詞フレーズに（、）を付け『父親、母親和弟弟』『一本書、一枝鉛筆和一本辞典』と三つ以上の場合は（等）がなければ、最後の単語には（和）を付けます。ですから日本語式に（、）を付けるとみな並列文になると誤解され、まったく意味が理解出来なくなります。

また日本語と異なり、中国語は時間を主語のすぐ前後におき、動詞も肯定語・否定語も前にあり、しかも（。）は一つの内容を説明する文章終了を表します。それに日本語と大きく異なることは、接続詞の使用が非常に少ないというか、ほとんど使用されず、しかも意味が繋がっている文が長い文で数百文字になるのも珍しくなく、翻訳・通訳時には時間詞や動詞・否定詞・肯定詞が一体どこまで掛かるのかは、すべて記号を見分ける力にかかります。そうしないと最後に行方が判らなくなります。一体終わったのか？終わろうとしているのか？終わっていないのか？終わらせようと思っているのか？思っているがまだ終わっていないのか？したいと思っているだけなのか？前にあるものを見落とすと判らなくなります。通訳をしている時よく聞き漏らし、『一体終わったのか？』と質問すると前で『想』『不想』『現在』『将』『去年』とか言ったと指摘されました。例えば：『他是中国留学生，三年前從上海来的，現在在日本学經濟。』他についての説明が終わるまで（。）は付けません。ところが、学生が書くと（、）の所は全部日本語式に（。）が入ります。こうなるとこの文は短いので混乱はありませんが、もし数百文字の文であれば、三年前に誰が来たのか？誰が現在学んでいるのか判らなくなるのです。

中国では小さい頃からこの記号使用を重視する教育が行われています。私が中国の中学で国語の授業を受けた際、『标点符号』の説明の時間に先生はまず黒板に『下雨天留客天留我不留。』と書き、（，）の付け所で意味が全く異なる事を教えられました。

もし『下雨天留客，天留，我不留。』とすると『雨の降る日は客を留める。天は留めるが、私は留まらなかった。』となり、これを『下雨天，留客天，留我不？留。』であれば『雨の降る日は客を留める日、私を留めるだろうか？留める』となると説明して、必ず『标点符号』を付けることと教えるのです。

最近ある新聞の見出しに『携帯電話料』改行して『金を基準化』とありました。中国に関する記事でしたので、私は『え？中国では金を基準に携帯電話料を支払うの？』と思ってよく見ると『携帯電話料金を基準化』となるのです。

『茹で卵を食べた』これをワープロー括変換し間違えると『茹でた孫を食べた』となり日本語でも切る所を間違えると意味も異なり笑い話になります。

『我。』は『私です。』『我？』『私ですか？』『私だと言うの？』となります。

日本人は文章の中で（？）を使う習慣が無いせいでしょうか、中国語を書く際に（？）をよく書き忘れますが、中国文では必ず最後に（。）か（？）を付け、場合には上記のように『名詞』のみでも後ろに（？）を付けて、発音する時には上調子で言うと言派な疑問文になるのです。

『今日は 5 号不是』『他是学生不是』これらの反復して書くことによる疑問文も、疑問記号が最後についていると『今日は 5 日ですか』『彼は学生ですか』となりますが、もし疑問記号が最後についていないと、『今日は 5 号？不是。』ともとれつまり『今日は 5 日ですか。いいえ。』となります。『他是学生？不是』と読まれれば『彼は学生ですか？いいえ』となるので、（？）この記号は慣れていませんが、必ず『肯定と否定をつけた疑問文』にはつけるよう強調しています。とにかく語学は最初からしっかりしないと癖になってしまってから修正するのはとても難しいと実感していますので、厳しくチェックします。学生がよく『先生は細かい所まで見ているのねー！』と驚きますが、『中国語ではとても大事なのよ』と『てんで話にならない！』『まるで判らない！』と説明しています。

また日本語ではあまり見掛けない記号（；）（：）等が多く用いられ、文章の中で大変重要な役割を果たします。新聞や経済等の理論書物では最初から（。）までの文が数百字というのも珍しくなく、これらはみなこれらの記号をうまく使用して読者に意味を理解させているのです。

特に目で追って中国語文を読みながら即座に日本語に翻訳する場合等、この記号は大変役に立ちます。『説：』『内容：』『第三次借款：』と（：）があると、後ろにはこの内容が書かれていることが判ります。そして（；）が中間にあると、この数だけ内容が分けられていますので、本当に翻訳する際大いに助かります。逆に言うとそれほど中国語はロジック性の大変強い言語と言えるし、これをあやつって話す人々は日頃から頭の中で整理していることを示しています。

これらの記号で意味が変わる例を挙げましょう。

『蛇、』後ろに蛙、ヤモリ等続くと思います。『蛇、』一段落したことが判り、『蛇。』でこの文が終了したことが判ります。『蛇；』で第一の文が終了し、次に第二の文が続くことが判ります。『蛇？』で『何蛇が出たって？』『蛇がどうしたの？』という意味を表し、『蛇！』で『キャーッ蛇が出たあ！』となります。

最近友人に教えて貰った例はとても教訓になりますので以下ご紹介しましょう。

ある人が契約をしたのですが、後でクレームが起きたそうです。その原因が実は（，）の付け所に違いがあり、理解が異なったからだったそうです。

契約文には『無魚肉也可無鶏鴨也可無錢財也可』とありました。雇用した側は『無魚肉也可，無鶏鴨也可，無錢財也可』『食事は魚や肉が無くても、鶏や鴨がでなくてもよい。

（つまり野菜だけでよい）しかも無給でもよい』ととり、奇特的なボランティア精神の人と感心して雇用したのです。ところが雇用される一方は『無魚，肉也可，無鶏，鴨也可，無錢，財也可。』つまり『魚が無い日は肉でもよい。鶏の無い日は鴨も良い。銭の無い時は現物でもよい。』ととっていたのです。全く異なる結果になりこの紛争は結果がどうなったのでしょうか。大変興味のあるところですよ。

また嫁取りの条件について協議した際書いた文には『脚不大好頭髮没有麻子』と書かれていました。嫁を取る側は『脚不大，好頭髮，没有麻子』つまり『足は大きくなく、良い髪をし、あばたの無い人』と条件を付けたのでした。しかし、嫁に出す側はこの文を読んで『脚不大好，頭髮没有，麻子』ととったのです。つまり『足はあまりよくなく、頭の髪は無く、あばた面の人』と取ったのですから、さあ大変です。

やはり、てんで話になりませんし、まるで判らなくなってしまいます。